森林ふれあい情報

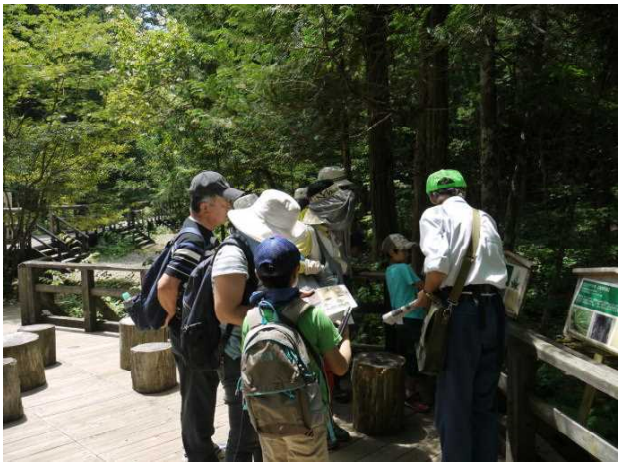
平成３０年１０月
第　４８　号

林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
〒397-0001　長野県木曽郡木曽町福島1250-7
TEL：0264(22)2122　FAX：0264(21)3151
E-mail：kiso-fureai@maff.go.jp

木曽の国有林見学会（2018夏季）

７月２６日（木）、木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曽川下流域の住民を対象とした「木曽の国有林見学会２０１８夏季」を開催しました。

昨年度までは春・秋の年２回の開催でしたが、本年度から夏季の開催を追加しました。開催した日が夏休みの期間であったことから、初めて小学生３名の参加がありました。



木曽五木の説明を受ける

この催しは、江戸時代から深い繋がりを持つ木曽地域と木曽川下流域との関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曽川下流域住民の方々に、木曽川源流域の国有林を訪ねてもらい、木曽地域の林業の歩み、木材輸送（伐採地、小谷狩り、森林鉄道）等名古屋市の白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の出材地を実際に見聞きし「４００年の歴史」を体感し、日本の森林・林業の現状について理解を深めていただくとともに、木曽地域の支援を目的として開催しています。

見学会に先立ち、名古屋事務所において見学会をより有意義なものとするために、希望者を対象に事前学習会を７月１９日（木）に開催し、名古屋市熱田区に貯木場があったこと、木曽地域との関係や自然休養林の概要などを、写真や映像を使い、理解を深めていただきました。

当日は天候に恵まれ、名古屋市内を中心に小学生を含む参加者２８名とスタッフ１名が、名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」を出発し、バスの中でも森林鉄道や木曽ヒノキに関する映像を見ながら自然休養林にバスを進めました。途中からバスに乗車した当センター所長から、自然休養林までの景勝地や伝説などの説明を受け、さらに想いを膨らませながら木曽ヒノキの生地へと向かいました。

ヒノキ大樹の説明を受ける参加者

自然休養林到着後、真夏の太陽の日差しが降り注ぐなか、木陰や川沿いの涼しい場所で昼食をとり、森林鉄道で木曽ヒノキの森林と渓流が織りなす景色を眺めながら終点の「丸山渡停車場」に移動し、当センター職員３名のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢三百年余りの木曽ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曽五木の樹種の見分け方や特徴など

を学びました。
　参加者からは「名古屋市では猛暑が続く中、こんなに涼しい場所で説明を受けながら、ゆっくり散策ができて大変よかった」「楽しかった」、参加した小学生からも「森林鉄道に乗れてよかった」などの感想が聞かれました。
　なお、この催しは、木曽復興支援の取組としても位置づけており、今後も実施にあたり参加者の意見・目線をとらえ、より意義のある催しとなるよう努めて参ります。

教職員を対象とした森林・林業体験学習会

木工細工に励む参加者

　木曽郡内の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を、木曽町の御料館（旧帝室林野局木曽支局庁舎）及び城山史跡の森（城山国有林）で８月７日（火）に実施しました。
　この学習会は、小・中学校の教職員に森林・林業について理解を深めていただき、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらい、学校での総合的な学習時間のプログラム作りに役立てもらうことを目的に、長野県との共催により平成１４年度から実施しているもので、今回で１７回目の開催となり、木曽郡内の小中学校教職員７名、関係者４名の計１１名で木工体験と林散策を行いました。
　開催場所を城山史跡の森としたことで、木曽森林管理署と「多様な活動の森」の協定を締結して活動拠点としている「城山史跡の森倶楽部」から講師を派遣していただき、御料館において、木材を使った木工体験としてミニイスとマイ箸の製作及び木曽の歴史や林業の変遷についての説明後、城山史跡の森を散策しながら、長野県の希少野生動植物に指定され、当史跡の森に自生しているササユリ・ヤマシャクヤクの保護活動の説明、史跡の森の生い立ち、植物・樹木の見分け方や治山施設の役割について学びました。
　また、中央アルプスでニホンジカの生息が確認されたことから、ニホンジカ生息調査のためにセンサーカメラを設置していることを説明し、城山史跡の森に設置しているセンサーカメラで撮影されたニホンカモシカ、イノシシ、クマの画像を見てもらった後に、センサーカメラ設置の実演も見学していただきました。
　参加した先生からは「楽しく参加する中で、木曽の森林について理解を深めることができた」「今回の学習会を機に木曽で教員をする人間として森林、自然についてもっと知識を深めたい」「ミニイス作りを授業に取り入れたい」などの感想が寄せられました。

講師から説明を受ける参加者

中央アルプスでの植生復元

植生マット敷設作業

中央アルプス駒ヶ岳（標高２，９５６ｍ）の頂上周辺では、登山者の踏み荒らしや、大量の降雨、降雪、強風による砂礫の移動等により貴重な高山植物の衰退が懸念され、当センターでは関係機関・団体等と連携して植生の衰退防止と復元を図ることを目的に平成１７年度から植生マットの敷設作業を開始し、平成２９年度までにマットの補修（敷き直し）を含めて延べ２，３１８㎡を実行してきました。

植生マットの敷設等を行ったことで、登山者による踏み荒らしの回避、表土の流出防止、砂礫の移動を最小限に抑える等の効果があり、駒ケ岳の植生が徐々にではありますが着実に復元してきています。

９月１３日（木）、駒ヶ根市観光推進課職員の方をはじめ南信及び木曽森林管理署員等１３名の参加のもと、ロープウェイ山頂駅から現地までの資材運搬と植生マット敷設（８０㎡）及び高山植物種子の播種作業を行いました。

秋雨の影響により天候が心配されましたが、作業中は好天に恵まれ予定していた作業も無事に終了したところです。

今後も、実行箇所における植生回復の経過観察を行いつつ、補修が必要な箇所への敷設作業を取り入れるなど、高山帯での植生復元事業に取り組んでいきたいと考えています。

林　業　体　験　指　導

みどりの少年団集会交流

名札づくりに励む団員達

木曽地域のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会が、７月３１日（火）に長野県木曽地域振興局の主催で開催され、当センターから２名が技術指導で参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されており、今年は王滝村「松原スポーツ公園」を会場に木曽地域の１１の少年団、引率教員、主催者、指導者等を含め約１４０名が参加しました。

当日は代表として３つのみどりの少年団による活動発表後、各グループに別れ名札づくりの作成及び自己紹介のあと、森や自然、木曽五木等に関するクイズラリーを行いました。
午後からも、引き続きグループ毎で木工体験として木曽五木のペン立てと木製プランター作りを行いました。
子供達は完成する頃にはお互いに仲良くなり、良い交流の場となりました。

阿久比高校森林ボランティア

８月７日（火）愛知県立阿久比高等学校の生徒４３名と教師４名により、木曽町開田高原の末川国有林においてクマ被害防止デープ巻き及び除伐作業を行いました。
阿久比高校では生徒達が以前から阿久比町内外でボランティア活動を実施しており、この森林ボランティアは昨年度台風の影響で中止、今回で２１回目となります。
作業地は毎年長野県西部地震復旧跡地の「国民の森」において除伐作業を実施していましたが、７月の豪雨により林道が荒れてしまい通行ができない状況となり、作業場所を変更して実施しました。
当日は当センター及び木曽森林管理署職員の指導の下６班に分かれ、それぞれ班毎に獣害防止テープ巻きと手ノコを使い除伐と、除伐した木を玉切る作業を行いました。どの生徒も最初は慣れない作業で手間取っていましたが、作業を進めるにしだいにうまく作業が出来る様になり、終わるまで怪我も無く無事に作業を終了することができました。今回のボランティア作業を通して、森林の大切さや森づくりの苦労などを理解したと思います。

獣害防止テープ巻きを行う生徒達

みよし市友好の森ふれあいツアー

９月１５（土）愛知県みよし市が開催した「みよし市友好の森ふれあいツアー」にみよし市在住の市民３１名（内小学生１８名）と、木工細工の技術指導として木曽地域振興局員、木曽森林組合員、木曽森林管理署職員１名と当センター職員２名の総勢４６名で行われました。
この催しは、黒沢御岳国有林と隣接する木曽町三岳地区内にみよし市が水源涵養林として所有しているみよし市友好の森の除間伐作業を通じて、市民の方に森林保護、環境保全等の啓発及び、水源地の皆さんとの交流を図ることを目的として毎年開催しています。今年は台風２１号の影響で前日まで現地に向かう道路が通行止めとなったことから、同三岳地区の太陽の丘公園でシラカンバの若木を使った、丸太切りや切った丸太を使っての鉛筆立て等の木工細工の体験となりました。
終わりの会では友好の森巡視員の方からの友好の森のお話や木曽地域振興局職員から木の話を聞くなど、参加者達は楽しい１日を過ごし無事に帰路に着きました。

丸太きり体験する子供達